

【2013年の営巣状況】

➤今年の十三崖ではチョウゲンボウの営巣は確認されませんでした。≪
～昭和25年頃開始の十三崖での営巣数の確認以降、初めてのことで～

今年の4月下旬には、昨年チョウゲンボウが利用した十三崖上流側の巣穴である「横穴」と、一昨年に利用した下流側の「人工穴」に出入りするオスの成鳥をそれぞれ確認しました。しかし、確実なつがいとしての確認はできませんでした。それらのオスは、上空から急降下して巣穴に入ったり、餌をつかんだまま上空を旋回したりと、メスへのアピールと推測される行動を行っていました。時折、それらの巣穴周辺にメスが飛来しました。一見、つがいが形成されたかのように見えたのですが、メスは巣穴に定着しませんでした。そのため、いずれのオスも確実なつがい関係は成立しないと考えられました。一方、2010（平成22）年から十三崖に定着しているハヤブサは抱卵期であると考えられました。

応援団理事の常田英士氏によると、4月にハヤブサがチョウゲンボウに激しく攻撃を行っていたことが観察されたそうです。また、昨年「横穴」に営巣したつがいは、一昨年よりも長い時間巣近くで警戒を行っていたことが、データの解析結果から明らかになりました。チョウゲンボウに対するハヤブサの攻撃性が年々強くなってきているのかもしれない。

その後、5月までオスはこれまで毎年のように利用されてきた上流側の「横穴」と、下流側の「人工穴」に出入りしました。一方、メスはいずれの穴も出入りし交尾を行う個体が複数回確認されましたが、どの個体もその後姿が見えなくなりました。結局メスは1羽も十三崖に定着せず、つがいとして営巣を行うことはありませんでした。

今年、十三崖でチョウゲンボウが営巣しなかった理由は明確ではありませんが、いくつかの要因が推測されます。第一に考えられるのが、前述したハヤブサの影響です。次に考えられるのが、主食であるハタネズミの生息密度の減少です。応援団事務局では、毎年十三崖周辺で生け捕りわなによるハタネズミの密度調査を、3月から6月にかけて行っていますが、今年の調査では1個体も捕獲されませんでした。

今後、十三崖でチョウゲンボウの集団営巣を維持していくには、これらの原因を究明し、対策を考える必要があると考えられます。